

公益社団法人 日本天文学会

2023 年度事業報告書

I. 出版物の刊行(定款第 2 章第 5 条 2 項に該当の事業)

1. 欧文研究報告 (Publications of the Astronomical Society of Japan) : 第75巻2号ー6号、第76巻1号の計6回刊行。総論文数87編 (うちLetter 5) 、総頁数1,228頁、電子版および紙版 (発行部数40部) 、偶数月発行。
2. 天文月報 : 第116巻5号ー12号、第117巻1号ー4号を刊行。総頁数784頁、発行部数3,420部、毎月20日発行。
3. 年会予稿集 : 2023年秋季年会発行総頁数318頁、250部印刷。2024年春季年会発行総頁数260頁、200部印刷。
4. ジュニアセッション予稿集 : 予稿集68頁、450部印刷。
5. シリーズ 現代の天文学 : 第11巻および第12巻の第2版を刊行した。

II. 年会の開催(定款第 2 章第 5 条 1 項に該当の事業)

1. 2023 年秋季年会

2023 年 9 月 20 日 (水) から 22 日 (金) の 3 日間、名古屋大学東山キャンパス (愛知県名古屋市) にて開催した。口頭講演は原則現地で行い、オンラインでも聴講できるハイブリッド開催とした。ポスター講演の掲載は、オンラインで掲示するとともに、現地会場でも掲示を行った。講演件数は口頭講演が 515 件、ポスター (b・c) 講演が 146 件で、合計 661 講演であった。参加登録人数は会員 1,074 名、非会員 126 名の計 1,200 名であった。本年会では、通常講演のほか企画セッション 4 件、特別セッション 1 件 (天文教育フォーラム) 、欧文研究報告論文賞の受賞記念講演を開催した。記者発表 (講演 2 件) は 9 月 19 日 (火) にオンラインで開催した。展示コーナーは賛助会員による展示 4 件と正会員による 1 件の展示があった。また保育室を開設し、2 家族 2 名の利用があった。懇親会は行わなかった。公開講演会は 9 月 18 日 (月) に名古屋市科学館でハイブリッド開催し、約 163 名の現地参加があった。

2. 2024 年春季年会

2024 年 3 月 11 日 (月) から 15 日 (金) の 5 日間、東京大学本郷キャンパス (東京都文京区) にて開催した。前半 2 日間は現地対面+オンライン配信のハイブリッド開催、後半 3 日間は完全オンライン開催であった。ポスター講演の掲載は、オンラインで掲示するとともに、現地会場でも一部掲示を行った。講演件数は口頭講演が 409 件、ポスター (b・c) 講演が 83 件で、合計 492 講演であった。参加登録人数は会員 942 名、非会員 55 名の計 997 名であった。本年会では、通常講演のほか企画セッション 3 件、天文教育フォーラムを含む特別セッション 2 件、林忠四郎賞・研究奨励賞の受賞記念講演、ジュニアセッション (3 月 12 日 (火)) もハイブリッドで開催した。ジュニアセッションの講演数は 57 件であり、370 名の参加があった。記者発表 (講演 1 件) は 3 月 8 日 (金) にオンラインで開催した。展示コーナーは賛助会員による展示 3 件と正会員による 1 件の展示があった。懇親会は行わなかった。公開講演会は 3 月 9 日 (土) にキャンパス内の小柴ホールでハイブリッド開催し、約 80 名の現地参加があった。

III. 代議員総会・理事会・会員全体集会及び監査(定款第 6ー8 章第 36ー57 条に該当の事業)

1. 代議員総会

日 時 : 2023 年 6 月 11 日 (日) 13 時 00 分~14 時 50 分

場 所 : 日本天文学会事務所 (オンライン開催)

議 長 : 山本 智 (議事録は学会ホームページに掲載)

日 時：2023 年 9 月 21 日（木）12 時 20 分～13 時 30 分
場 所：名古屋大学（ハイブリッド開催）
議 長：井田 茂（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2024 年 1 月 15 日（月）16 時 30 分～19 時 10 分
場 所：日本天文学会事務所（オンライン開催）
議 長：井田 茂（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2024 年 3 月 9 日（土）10 時 30 分～11 時 30 分
場 所：日本天文学会事務所（オンライン開催）
議 長：井田 茂（議事録は学会ホームページに掲載）

2. 理事会

日 時：2023 年 5 月 21 日（日）13 時 00 分～15 時 00 分
場 所：日本天文学会事務所（オンライン開催）
議 長：山本 智（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2023 年 6 月 11 日（日）16 時 30 分～17 時 40 分
場 所：日本天文学会事務所（オンライン開催）
議 長：井田 茂（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2023 年 9 月 19 日（火）16 時 30 分～18 時 00 分
場 所：名古屋大学（オンライン開催）
議 長：井田 茂（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2023 年 12 月 27 日（水）16 時 30 分～18 時 30 分
場 所：日本天文学会事務所（オンライン開催）
議 長：井田 茂（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2024 年 3 月 8 日（金）15 時 30 分～17 時 00 分
場 所：日本天文学会事務所（オンライン開催）
議 長：井田 茂（議事録は学会ホームページに掲載）

3. 会員全体集会

日 時：2023 年 9 月 21 日（木）17 時 00 分～18 時 00 分
場 所：名古屋大学（ハイブリッド開催）
司 会：勝川 行雄

日 時：2024 年 3 月 11 日（月）16 時 30 分～18 時 00 分
場 所：東京大学（ハイブリッド開催）
司 会：勝川 行雄

4. 公益社団法人 2022 年度監査

日 時：2023 年 5 月 12 日（金）14 時 30 分～15 時 30 分
場 所：国立天文台すばる棟院生セミナー室

出席者：奥村幸子監事、花岡庸一郎監事、酒向重行会計理事、鹿野良平会計理事、町田真美庶務
理事、佐藤良信事務長

IV. 委員会など(「日本天文学会委員会等に関する細則」に準拠)

本年度は以下の 22 の委員会と 1 の顧問において構成メンバー（任期 2 年の 1 年目）により各種活動が行なわれた。

◇ 選挙管理委員会

第 8 期代議員（任期：2024 年度～2027 年度）の選挙を定款及び代議員選挙施行細則に則り行った。2023 年 11 月 8 日～12 月 5 日を投票期間とし、2023 年 12 月 13 日に開票作業を行った（投票率 34.5%）。代議員選挙施行細則第 10 条により、定数 24 名の当選者を得票順に決定した。また次点 2 名を補欠として決定した。以上の選挙結果を天文月報 117 巻 2 号において報告した。

◇ 推薦委員会

第 8 期代議員（任期：2024 年度～2027 年度）の選挙について、代議員選挙施行細則第 7 条に則り、候補者の推薦を行った。具体的には、会員から広く候補者の推薦を募るため、2023 年 9 月 20 日～10 月 4 日に候補者の推薦を受け付けた。受け付け締め切り後、本委員会で代議員候補として被推薦者の選出を行い、その結果を 2023 年 10 月 11 日に選挙管理委員会へ報告した。

◇ 欧文研究報告編集委員会

2023 年度は、153 編の論文が投稿され編集委員が分担して査読手続を行った。通常号を 6 号発行し、87 編・1,228 頁を掲載した。編集委員会議を 2023 年 4 月 26 日にオンラインで開催し、査読の手続きと方針の確認や改善点の検討を行った。編集顧問委員合同会議を 2023 年 12 月 25 日に東京大学（本郷）にてオンラインとのハイブリッドで開催した。今後の特集企画や投稿促進策、投稿規定の改訂などについて検討し、OUP 社の方とも現在の刊行状況や Read&Publish 契約の活用などについて意見交換を行った。宇宙線国際会議（2023 年 7 月・名古屋）および国際天文学連合アジア太平洋地域会議（2023 年 8 月・郡山）ではブース出展のほか、関連論文のコレクションを期間限定でフリーアクセスとするキャンペーンを実施した。そのほか検討すべき事項について随時メールにより議論を行った。

◇ 欧文研究報告編集顧問

編集顧問・編集委員合同会議を 2023 年 12 月 25 日に東京大学（本郷）にてオンラインとのハイブリッドで開催した。今後の特集企画や投稿促進策、投稿規定の改訂などについて検討し、OUP 社の方とも現在の刊行状況や Read&Publish 契約の活用などについて意見交換を行った。

◇ 天文月報編集委員会

月に一度、zoom 会議システムを用いて編集会議を開催し、天文月報の編集作業を行った。また、コロナ禍による活動制限解除を受け、対面での編集会議を年 2 回程度の頻度で復活させることとし、2023 年 9 月 7 日と 2024 年 3 月 8 日に国立天文台にて対面編集会議を開催した。内容面では、3 つの特集（光赤外位置天文学、アルマ 10 周年、IXPE 特集）を組んだほか、3 つのシリーズ企画（佐藤文隆氏ロングインタビュー、アカデミアの外を知る、海外の研究室から）も継続した。また、堀源一郎氏、林田清氏、海野和三郎氏の追悼記事を掲載した。

◇ 年会実行委員会

秋季年会（2023 年 9 月 20 日～22 日・ハイブリッド）および春季年会（2024 年 3 月 11 日～15 日、前半 2 日間はハイブリッド・後半 3 日間は完全オンライン、ジュニアセッションは 3 月 12 日にハイブリッド）を開催した。両年会の準備にあたっては、2023 年 6 月 9 日・7 月 6 日・10 月 20 日、2024 年 1 月 12 日にオンラインにて年会実行委員会およびプログラム編成会議を開催した。

◇ 天文教育委員会

春季年会及び秋季年会開催時に天文教育フォーラム（日本天文教育普及研究会と共催）をハイブリッド形式で開催した。講師紹介プログラムは本年度 7 件依頼があり、7 名を紹介した。監修者紹介

プログラムは本年度 6 件依頼があり、5 名を紹介した。うち 1 件は取り下げとなり、紹介に至らなかった。約 2 か月に 1 度の定期的な委員会会議を開催するほか、女子中高生夏の学校や国際天文学連合 (IAU) の Office of Astronomy for Education (OAE) の活動、2023 年度から新たに企画・実施した中高生・教員と若手研究者の「天文対話」など、天文教育に関する各種協力要請に積極的に対応した。

◇ ネットワーク委員会

日本天文学会のウェブサイトについては、委託業者の支援を受けつつウェブサーバの保守・運用を行った。学会が運用しているメーリングリスト (tennet) とそのアーカイブ公開は、事業継続性の観点から運用体制を変更する準備を進め、外部業者が提供するクラウドサービスを利用した運用への切り替えが 2023 年 7 月に完了した。

◇ 林忠四郎賞選考委員会

天文月報 2023 年 9 月号並びに tennet で、林忠四郎賞受賞候補者の推薦と欧文研究報告論文賞候補論文の推薦を 11 月 6 日締切で会員に依頼した。11 月 23 日に選考委員会を開催し、林忠四郎賞候補 1 件、欧文研究報告論文賞候補論文 2 篇を選出し、2024 年 1 月 15 日に開催された代議員総会に推薦した。

◇ 研究奨励賞選考委員会

天文月報 2023 年 9 月号並びに tennet で第 35 回研究奨励賞候補者の推薦を会員に依頼した。2023 年 12 月 25 日および 26 日に選考委員会をオンラインで開催し、候補者 3 名を選出し、2024 年 1 月 15 日に開催された代議員総会に推薦した。

◇ 早川幸男基金選考委員会

若手海外学術研究援助の募集・選考を、第 121 回から 124 回までの 4 回実施した。応募 50 件 (前年度 37 件) のうち、24 件を採択したが 4 件は採択後に辞退した (前年度の採択件数は 18 件、うち辞退 1 件)。2023 年度の採択率は 48% (前年度 49%) であった。予算 600 万円のところ、支給額は 5,030,334 円であった (1 件は 2024 年 3 月末以降の支払いとなり今年度支給額からは除いている。前年支給額は 5,511,336 円)。

◇ 国内研修支援金選考委員会

2024 年度国内研修支援金の案内を天文月報 (2023 年 6 月号) と tennet 及び天文教育普及研究会のメーリングリストを用いて行い、応募者を募集した。しかしながら、応募者は前年度に引き続き 0 名という結果であった。これに際し、選考委員会のメーリングリスト上で、事務長を交えて議論を行った。「本支援金の制度そのものを見直す時期に来ているのかもしれない」といった意見も出されたが、制度の見直しに関しては本選考委員会での権限を超えるものになりうることから、さしあたりは 2024 年度の動向を伺うこととした。

◇ 天体発見賞選考委員会

天体発見賞、天体発見功労賞、及び天文功労賞の第一回選考会議を、2023 年 12 月 11 日にハイブリッド形態 (広島大学東広島キャンパス+Zoom 利用) で開催した。これに先立ち、2023 年 8 月に tennet および天文月報 2023 年 9 月号で 2023 年度天文功労賞候補者の推薦募集を告知したが、一般会員からの推薦は 0 件であった。第一回選考会議に参加できない委員が 1 名いたことから、12 月 13 日にオンライン (Zoom 利用) で第二回選考会議を開催した。12 月末日までの発見が受賞対象となることから、付加的な第三回選考会議を 2024 年 1 月 4 日にオンライン (Zoom 利用) で開いた。天体発見賞、天体発見功労賞については 2023 年中の IAU が管理する TNS からの速報や、CBET、MPEC、さらに ATel 等の資料に基づき選考を行った。天文功労賞については、選考委員会委員からの推薦に基づき

選考を行った。選考会議の結果、天体発見賞 5 氏 12 件、および天体発見功労賞 2 氏 3 件の候補を選出した。天文功労賞（長期部門）については、5 件の中から 1 件 1 氏を選出した。天文功労賞（短期部門）については、4 件の中から 1 件 1 氏を選出した。これらの選考資料を 2024 年 1 月 15 日に開催された代議員総会に提出し、最終的に選考通りに受賞が確定した。

◇ 日本天文遺産選考委員会

天文月報 2023 年 9 月号、tennet、および学会ホームページにおいて、日本天文遺産（第 6 回）の推薦を会員に依頼した。2023 年 10 月 16 日と 10 月 27 日にオンライン会議による選考委員会を開催し、3 件（4 箇所）の候補を選出した。それぞれについて現地調査、所有者および管理者の意向確認を行い、2024 年 1 月 15 日に開催された代議員総会へ推薦した。代議員総会で全件が日本天文遺産として認定され、認定結果は春季年会に先立つ 3 月 8 日の記者会見で発表された。認定証および記念品（楯またはパネル）の贈呈式は、3 月 11 日の会員全体集会においてオンラインで実施され、各所有者代表の 4 人が出席され、それぞれから挨拶をいただいた。なお、2022 年度末の内規改正を受け、2023 年度から候補推薦書の様式を一部変更し、所有者情報の記載を必須とした。また、tennet および学会ホームページでの推薦依頼の開始を、それまでの 8 月下旬から 8 月初めに早めて実施した。

◇ 天文教育普及賞選考委員会

第六回天文教育普及賞候補の選考を行った。天文月報・tennet を通じて 9 月末締切で推薦を依頼した。新たに 6 件の推薦があり、昨年度までの分を加えて 21 件について、2023 年 11 月 27 日にオンラインにて選考委員会を開催した。都合により出席出来ない 1 名からは事前にコメントをもらった上で、他の委員の出席の下、議論の結果 3 件（個人 1 件、団体 2 件）を受賞候補とすることを決定した。2024 年 1 月 15 日に開催された代議員総会で審議が行われ、提案通り受賞が決まった。その後、学会ホームページで公表され、受賞結果の詳細は、3 月 8 日に春季年会に先立つ記者会見で発表された。3 月 11 日の全体集会においてハイブリッドで表彰式を行った。

◇ ジュニアセッション実行委員会

2024 年春季年会（東京大学・ハイブリッド開催）にて第 26 回ジュニアセッションを開催した。2024 年 1 月 23 日の予稿提出締め切りを受けて、2 月 4 日にプログラム編成会議を国立天文台三鷹およびハイブリッドで実施したほか、随時各委員、世話人が年会実行委員、開催地理事とともにメール等で連絡を取りつつ運営に関する議論・調整・準備作業を行った。タイからの発表 5 件を含め、合計 57 件の発表申込があった。そのうち、現地会場での発表は 45 件であった。現地参加が発表者生徒 160 名、指導者 48 名に加え、年会参加の研究者、教育研究者、保護者等一般の方など約 290 名、オンライン参加者は約 80 名と推計され、のべ参加者数は約 370 名であった。予稿集を編集し、発行した。発表者には予稿集と参加証を配布した。会場では来場者に若干部を配布したほか、ジュニアセッションホームページから閲覧できるようにした。ハイブリッド開催として、口頭セッションはオンライン参加者も含めた全員参加で実施した。現地では、2 つの会場をオンラインで接続して行った。一方、ポスターセッションは、対面での議論が可能な現地会場のみで行った。さらに、発表資料をジュニアセッションホームページから公開し、コメントフォームから投稿された各発表への質問・コメントをとりまとめて、発表者に送付した。

◇ 男女共同参画委員会

例年開催されている「女子中高生夏の学校」にて、天文教育委員会とともに、大学院生らとポスター展示を行い、進路・キャリア相談カフェに参加した。なお、主催団体の「男女共同参画学協会連絡会」には、2023 年 11 月より正式加盟学協会会員として参加している。また、2024 年 3 月に行われた春季年会会期中、女性天文研究者の会との共催により、「女性天文研究者の会 14 周年特別記念講演会」として加藤万里子氏（慶應義塾大学名誉教授）による講演会を開催した。子育て世代・

介護世代をサポートするための年会オンライン開催にむけたタスクフォースに参加し議論を続けるとともに、新たにハラスメント防止に関するガイドラインの策定を理事会に提案した。

◇ 衛星設計コンテスト推進委員会

主催団体の一つとして、他の8団体と協力し、第31回衛星設計コンテストを実施した。今年度は昨年度より8件少ない60件（設計の部6、アイデアの部18、ジュニアの部36）の応募があり、うち2件が海外（シンガポール）からの参加であった。書面審査により、設計の部2、アイデアの部6、ジュニアの部8の合計16件が書面審査を通過した。それらを対象とした最終審査会は2023年11月25日（土）に、東京都千代田区一ツ橋の学術総合センターを会場にハイブリッド形式で開催され、オンライン参加は2校（ともに国内）であった。審査により各賞が決定され、日本天文学会賞は、高知工業高等専門学校の名によるアイデアの部の提案「3次元可動型永久磁石姿勢制御衛星GIMIC」に授与された。特記事項として今回、設計大賞（自動的に文部科学大臣賞も受賞）には該当がなかった。詳細は <http://www.satcon.jp/> を参照されたい。

◇ 全国同時七夕講演会実施委員会

2023年5月23日から全国同時七夕講演会のホームページ上で対面開催およびオンライン開催の両方の講演会の登録受け付けを開始した。また、天文教育普及研究会の共催および日本学術会議の後援を取得した。7月7日の七夕の日や、伝統的七夕の日（令和5年は8月22日）を中心とした6月下旬から9月上旬の間に31会場の44件の講演会が実施され、これらのうち対面開催は27会場の40件（うち4会場4件の講演会はオンラインとのハイブリッド開催）、オンラインのみの開催は4会場4件だった。これらのうち28会場の講演会主催者から参加者の報告があり、当日参加者数と9月末までの講演会の視聴者数（録画も含む）の合計は1812人だった。

◇ キャリア支援委員会

2023年度も、天文学コミュニティに属する研究者や学生がそのキャリアを切り拓いていくことを支援することを目的にさまざまな活動を行った。具体的には、オンラインの談話会である「キャリアカフェ」を2回実施した他、天文学と社会を繋ぐ職種の人事情報の収集（53件）と発信、天文月報における連載記事の企画・執筆協力（シリーズ：アカデミアの外を知る、2記事）等を行った。天文天体物理若手の会の主催する夏の学校におけるキャリアセッションにも協力し、講演者の紹介および謝金・旅費の支援を行った。これらの活動については情報を整理し、学会ウェブサイトの方へも掲載を行った。

◇ コンプライアンス委員会

本年度は、会長または代議員総会からコンプライアンスに関わる事案の諮問がなかったため、本委員会は開催されなかった。

◇ インターネット天文学辞典編集委員会

「インターネット天文学辞典」 (<http://astro-dic.jp/>) の更新・改良・維持運用を行っている。2024年4月5日時点での登録用語数は3,301用語である。編集委員は主にメールにて連絡を取り合い、日常的に改訂・更新作業を分業している。この1年間（2023年4月1日から2024年3月31日）での内容更新数は828回である。並行して、制作委員による会議を毎月1回行い、アクセス解析やコンテンツの改良等を行ってきた。利用者からのフィードバックは3月31日までの1年間で109件あり、約半数を占める、内容が妥当な指摘については適宜対応した。Deadlinkも定期的にチェックし適宜対応した。総アクセス数は、季節変動があり、中学校・高等学校・大学での利用が多くを占めていると予想している。2023年6月分よりアクセス数情報を提供している業者が集計方法を変えたため、それ以前との数値比較ができないが、6月以降の最大は月約22万アクセス程度で

ある。6 月前後 1 年間のアクセス数の月別相関から、これを 1.5～2.0 倍すると過去のアクセス数と同等となるようで、それで換算すると若干の増加であると推定でき、昨年度同様の傾向である。スマートフォン等のモバイル端末からの利用割合が増加してきたため、PC からの利用を想定していた従来のデザインからの変更作業を開始した。また、本会の活動がきっかけとなって、IAU の Office of Astronomy for Education (OAE) が類似のオンライン辞典を多言語で作成することとなり、日本語版についての協力要請があり、まずは OAE 関係者が日本天文学会天文学辞典との項目比較を行った。

なお、2023 年 6 月にサーバーの停止事件が発生した。原因・業者の対応の問題点などを検討の上、サーバー運用業者の能力が低下しており継続は不適切であると判断し、現在は他の業者のサーバーへと移行した。

V. 各賞の授与(定款第 2 章第 5 条 7 項に該当の事業)

2023 年度日本天文学会各賞および日本天文遺産の認定は、2024 年 1 月 15 日に開催された代議員総会で以下のように決定し、春季会員全体集会で授与した。

- ◇ 林 忠四郎賞 (1 氏)
高田 昌広 (たかだ まさひろ) 氏
東京大学 教授
研究の表題「すばる望遠鏡データを用いた精密宇宙論の探求」
- ◇ 欧文研究報告論文賞 (2 編)
 - ・ 論文題目 : Cosmological constraints from cosmic shear two-point correlation functions with HSC survey first-year data
著 者 : Takashi Hamana et al.
出版年等 : Vol. 72 (2020), No. 1, article id. 16
 - ・ 論文題目 : Optical and X-ray observations of stellar flares on an active M dwarf AD Leonis with the Seimei Telescope, SCAT, NICER, and OISTER
著 者 : Kosuke Namekata et al.
出版年等 : Vol. 72 (2020), No. 4, article id. 68
- ◇ 研究奨励賞 (3 氏)
 - ・ 木邑 真理子 (きむら まりこ) 氏
金沢大学 先端宇宙理工学研究センター 助教
研究の表題 : 多波長観測と数値計算によるコンパクト星への突発的ガス降着メカニズムの研究
 - ・ 田崎 亮 (たざき りょう) 氏
グルノーブル・アルプ大学 CNES Postdoctoral Fellow
研究の表題 : 惑星形成領域のダストの光学特性と多波長偏光放射に関する理論的研究
 - ・ 播金 優一 (はりかね ゆういち) 氏
東京大学 助教
研究の表題 : 高赤方偏移観測限界における先駆的な銀河形成研究
- ◇ 天体発見賞 (5 氏、12 件)
 - ・ 板垣 公一 (いたがき こういち) 氏 7 件
超新星 2023cr の発見、新星 V6597 Sgr の発見、超新星 2023ixf の発見、超新星 2023vv1 の発見、超新星 2023wcr の発見、超新星 2023xtg の発見、超新星 2023zgx の発見
 - ・ 奥野 浩 (おくの ひろし) 氏 1 件
超新星 2023fu の発見

- ・櫻井 幸夫（さくらい ゆきお）氏 1 件
新星 V6596 Sgr の発見
 - ・西村 栄男（にしむら ひでお）氏 2 件
彗星 C/2023 P1 (Nishimura) の発見、超新星 2023zvq の発見
 - ・小嶋 正（こじま ただし）氏 1 件
はくちょう座新星の発見
- ◇ 天体発見功労賞（2 氏、3 件）
- ・西村 栄男（にしむら ひでお）氏 2 件
新星 V6596 Sgr の独立発見、新星 V1716 Sco の独立発見
 - ・中村 祐二（なかむら ゆうじ）氏 1 件
新星 V6598 Sgr の独立発見
- ◇ 天文功労賞
- 長期的な業績（1 氏、1 件）
- ・佐久間 精一（さくま せいいち）氏
「国内の変光星観測者の育成・指導と観測データの収集・一元化、およびその国際化に関する
長年の貢献」
- 短期的な業績（1 氏、1 件）
- ・小嶋 正（こじま ただし）氏
「2014 年 11 月の 2MASS J06593158-0405277(= V960 Mon) の FU Ori 型アウトバーストの発見」
- ◇ 天文教育普及賞（1 氏・2 団体、3 件）
- ・NHK コズミックフロント制作チーム
「メディアを通じての天文学の広報普及教育への貢献」
 - ・阿部 昭（あべ あきら）氏
「天文趣味と天文学を繋ぐ出版活動、特に「星の手帖」誌の発刊」
 - ・天文学普及プロジェクト 天プラ
「新たな視点と形態による天文学の対話的活動」
- ◇ 日本天文遺産（3 件）
- ・「レプソルド子午儀及びレプソルド子午儀室」
所有・管理者： 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 国立天文台
 - ・「星間塵合成実験装置」
所有者： 国立大学法人 電気通信大学（UEC コミュニケーションミュージアム）
管理者： 国立大学法人 東京大学（大学院理学系研究科附属天文学教育研究センター）
 - ・「倉敷天文台と関連遺産」
「倉敷天文台」
所有者： 公益財団法人 倉敷天文台ほか
管理者： 公益財団法人 倉敷天文台
「旧倉敷天文台スライディンググループ観測室」
所有者： 倉敷市
管理者： 倉敷市（倉敷市教育委員会 文化財保護課及び倉敷科学センター）

VI. 助成金(定款第 2 章第 5 条 5、7、9 項に該当の事業)

- ◇ 早川幸男基金：
若手天文研究者の海外での研究活動のための渡航・滞在費の補助として早川幸男基金選考委員会の

選定に従い総額 600 万円の援助を行なう予定であったが、支給総額は、5,030,334 円であった。（応募数 50 件、採択数 24 件、内 3 件は採択後に辞退、また 1 件については領収書の提出が無く未払い、1 件については支払が 2024 年 3 月末以降になったため、2023 年度の支給総額には含まれていない。）

◇ 学術交流費（学生の年会参加旅費補助）：

年会の一部がハイブリッド開催となったことに加え、春季年会が東京（東大）での開催ということもあって、補助金の支給は 255,000 円となり前年度に比べ減少となった。

◇ 国内研修支援金：

2023 年度に続き、2024 年度を対象とした国内研修支援金の応募者はゼロであった。

VII. 後援事業等(定款第 2 章第 5 条 8 項に該当の事業)

国際・国内シンポジウムなどの後援 11 件、協賛 6 件（共催は 0 件）を決定した。

承諾日	実施月		事業名	宛先（代表者）
2023/5/2	2023/7	後援	第 13 回高校生天文活動発表会	実行委員会
2023/5/15	2023/7	後援	第 38 回宇宙線国際会議	実行委員会
2023/5/15	2023/8	後援	URSI 総会	実行委員会
2023/5/15	2023/8	後援	天文・天体物理若手夏の学校	実行事務局
2023/5/16	2023/6 ～2024/1	後援	青少年のための科学の祭典 2023	実行委員会
2023/5/22	2023/7	後援	仙台・宮城サイエンスデイ 2023	実行事務局
2023/5/25	2023/9	協賛	第 41 回レーザセンシングシンポジウム	レーザセンシング学会
2023/6/22	2023/8	後援	第 37 回天文教育研究会	実行委員会
2023/7/6	2023/10	協賛	第 67 回宇宙科学技術連合会講演会	日本航空宇宙学会
2023/7/6	2023/11	協賛	Optics & Photonics Japan 2023	日本光学会
2023/7/18	2023/9	後援	第 5 回量子線イメージング研究会	実行委員会
2023/8/15	2023/10 ～11	後援	みたか太陽系ウォーク	三鷹ネットワーク大学 推進機構
2023/9/4	2023/11	後援	第 23 回「こどものためのジオ・カーニバル」	企画委員会
2023/10/12	2023/10	後援	「三鷹・星と宇宙の日」	国立天文台
2023/11/27	2025/8	協賛	2025 年フォトンクス・電磁波光学研究に関するシンポジウム	実行委員会
2024/2/16	2024/5	協賛	日本地球惑星科学連合 2024 年大会	日本地球惑星科学連合
2024/2/16	2024/6	協賛	第 49 回光学シンポジウム	日本光学会

VIII. 外部の各賞・研究助成等への推薦(定款第 2 章第 5 条 7 項に該当の事業)

外部の各種の賞および研究助成に対し、TENNET・天文月報・学会ホームページで候補者を広く募り、会長・副会長が中心となって選考した上で学会としての正式の推薦を行った。（井上学術賞 1 件、日本

学術振興会賞 1 件（受賞決定）、日本学術振興会育志賞 1 件、島津奨励賞 1 件、東レ科学技術研究助成 2 件、山田科学振興財団研究援助 1 件）

IX. 事務所活動(定款第 1 章第 2 条)

日本天文学会事務所では、事務長を含む常勤職員 3 名と 6 名の非常勤職員により、本会の各事業に関する業務活動を行った。

X. その他

第 8 期代議員を選出するための選挙を行い、24 名の代議員と 2 名の補欠が決定し、天文月報 117 巻(2024)2 月号において報告した。

会 員 数

2023 年度末(2024 年 3 月 31 日)現在の会員数は以下の通りである。

	正会員(内学生)	準会員	団体会員	賛助会員	合 計
2023年3月31日	2, 272 (596)	1, 003	38	45	3, 358
入 会	245 (225)	48	1	1	295
退 会・除 籍 等 (うち 除籍) 注1	△191 (139) (△11 (0))	△95 (△14)	△4 (0)	0 (0)	△290 (△25)
移 籍 (増) 注2	1 (1)	13	—	—	14
移 籍 (減) 注2	△13 (0)	△1	—	—	△14
正会員へ (学生減) 注3	(△37)	—	—	—	—
2024年3月31日	2, 314 (646)	968	35	46	3, 363

(注 1：除籍とは会費未納による資格喪失を指す)

(注 2：移籍とは正会員、準会員との間の移動のことを指す)

(注 3：学割扱いの正会員から通常の正会員への移動を指す)

(文責：庶務理事 勝川行雄)